

アストロステージ製品の STELLAR を見て院内作業のデジタル化を検討
導入後はシステムの使い勝手の良さが院内外問わず好評



診療協力部 柏井部長 米戸院長

導入経緯

STELLAR の医療統合管理システムに
魅力を感じ、本格的なデジタル化を検討

当院では以前、現在は事務室として利用している場所へフィルムを保管していましたが、フィルム数の増加と共に管理スペースに困っていたことや、加算保険点数が付加されるようになったことで、PACS 導入に向けて具体的な検討を始めました。導入自体を検討し始めた4、5年前、ITEM の展示会でアストロステージ社の製品を拝見しPACS のデモを行なっていただいたのですが、時系列で医用画像と検査項目が並んでいる医療情報統合管理システムにとっても魅力を感じました。スッと操作になじむ使いやすさがあるというのが第一印象です。

今は一般的となりましたが当時は大変画期的なシステムであり、デジタル化を本格的に考え出したきっかけとなりました。

直感的でストレスレスな操作性と、コスト削減に合致する
低価格なシステムが決め手に

使い勝手が大変よく、アプリケーションを無理にマスターする必要もなく、直感的に使えたことが決め手となりました。また機能的なレスポンスが早いことでストレスなく操作できることも魅力だと感じています。コスト面でも他社システムと比較しても安価であり予算内の導入に期待ができました。PACS だけでなく統合診療システムなど、他社に先駆けて開発していたアストロステージの発想力や技術にはひかれるものがありました。

システムの機能、作業効率、表示速度、操作性、メンテナンス体制、そして価格と現場で納得するまで検討した結果、長年かけてこちらの細かな希望にも対応していただけたと思います。選定時には当院の運用形態に合わせた様々なシステムの提案がされましたが、打ち合わせを重ねる中で、最終的に当院のニーズに合致するアストロステージのPACS 導入を確定したのです。

導入システム

- DICOM 画像管理システム **Nazca**
- 診療情報統合システム **STELLAR**

導入効果

時間や手間、フィルムレスに伴う場所の無駄がなくなり、作業効率も向上

2011年に最新の低線量64列マルチスライスCT機器およびPACSを導入したことにより、診断技術の向上はもとより、患者さんにとって低侵襲でかつ、鮮明な画像の提供が可能となりました。システム導入前は予約日前日に患者様のフィルムを倉庫から探して、準備をする作業がありました。しかし、デジタルへ移行しフィルムレス化になったことで患者様への対応、説明がスムーズになり、技師だけでなく、看護助手、クラークの作業が縮小され全体的な業務効率が格段に向上しました。システムを操作する上での特別なスキルは不要でしたので現場が混乱することもありませんでした。読影の先生や院長先生からも選んでよかったと非常に高い評価をいただき、トラブルもなくきれいに使用できています。ビューアに慣れた技師には、アイコンや設定などを自分でカスタマイズできるので使い勝手がよいと好評です。

誰でも安心して簡単に操作が出来るので、改めて素晴らしいシステムだと感じています。画質も鮮明でクレーム等も全くなし、ストレスを感じさせないビューアに感心しています。

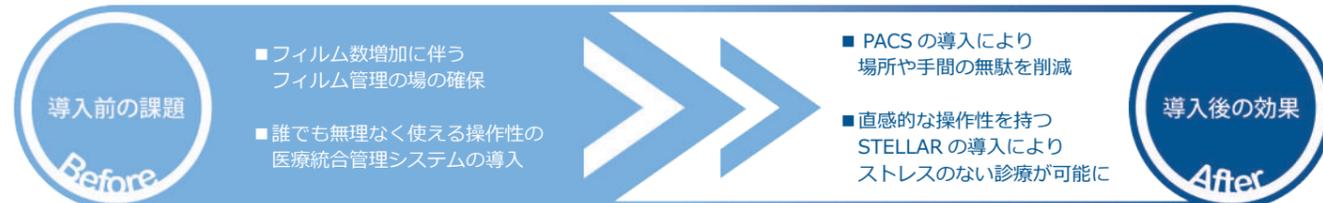
運用に際して、個人情報の取り違いといった
人為的なミスも軽減

患者様の個人情報を扱う場面では特に気を遣います。患者様を紹介する際にはCD-Rにデータを取り込み情報を配る等は安易に出来ませんが、他院の画像を取り込む際はウイルス等にも注意を払います。

端末を利用出来るスタッフも限定し、USBメモリ等のストレージへの使用も注意しております。また、患者様の前で違う人の画像がでることの無いよう、細心の注意を怠りません。



スタッフの皆さん



聖ヶ丘病院：システム導入時期 / Oct 2011



聖蹟桜ヶ丘駅から送迎バスで5分、東京都多摩市の緑に囲まれる閑静な住宅街の中にあります。病院の建物は院長自ら、実際にアメリカでデザインを視察し考えた、こだわりのある外観となっております。

1990年の開設以来、終末期医療に取り組み、1996年に都内で4番目のホスピスとして認定されました。院内には談話室や休憩室など優雅で気持ちのよい共用空間を設けており、ご家族や友人らとの触れ合いも心置きなく楽しめます。

私たちの目指す看護は、患者さんとご家族とも手を携えながらケアを進めていくことです。病でつらい時だからこそ、患者さんは親しい人とともに過ごす時間を大切に、心安らぐ時を過ごしていただきたいと思ひます。

当院は、家庭の暖かさと同様の医療の出会うところです。

所在地：東京都多摩市連光寺 2-69-6

病床数：48床

診療科：内科・外科・婦人科・人間ドック・ホスピス

今後の方針

引き続き終末期医療に力を入れることです。患者さんとその家族のための医療、一人ひとりに親身になって家族のように接するのが私たちの病院です。そして、もう1点は地域連携です。医師会とのミーティングによりシステム環境が整ってきていますので、ここ聖ヶ丘病院を中心に枝分かれしていく地域連携を目指したいと思います。将来的にはクラウドでの運営も含めデジタルネットワークでの地域連携に貢献するきめ細やかな医療提供体制を望んでいます。当院は地域医療に貢献しながら人間ドックも行っている独特な病院です。今後の展開として、訪問看護などを取り入れることも検討しています。

今後の期待・要望

多機能な為、まだ利用していない機能が多くあります。使用方法の研修などを定期的に行なっていただけると運用もよりスムーズになると思います。そういったワークショップなどを実施するのもいいのではないのでしょうか。システムの講習を行なっていただくことで自由自在でより良いカスタマイズが可能になるのでは、と期待しております。

システム構成図

